

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は小田急グループに対するご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第93期上半期の業績及び当社グループにおける取組みにつきましてご報告申し上げます。

取締役社長 山木利満



» 第93期上半期(2013年4月1日～2013年9月30日)の業績について

当上半期の当社連結業績につきましては、各事業にわたり積極的な営業活動を行ったことに加え、観光輸送も含めて全般的に好調に推移した鉄道事業をはじめ、小田急百貨店やハイアットリージェンシー東京などでも景況感の改善などによる

影響を受けていることなどから、増収増益の決算となりました。これに伴い、四半期純利益につきましては、上半期としては過去最高益となる161億4千4百万円となりました。

また、通期の業績見通しにつきましては、上半

期の業績が堅調に推移したことに加え、今後の経済動向においても、雇用・所得環境に改善の動きが見られるなか、個人消費は持ち直しの傾向が続くものと見込まれていることなどから、4月に公表した計画を上方修正いたしております。

今後も、グループ事業ビジョン「Value Up 小田急」のもと、グループ一体となって連携を強化することで事業環境の変化に対応していくとともに、計画の達成に向けて着実に施策を推進してまいります。

» 沿線エリアのさらなる魅力向上に向けて

小田急グループでは、グループ事業ビジョン「Value Up 小田急」のもと、お客さまがお住まいのエリア毎に、それぞれの地域の特性にあった街づくりや商品・サービスの提供などを推進しており、駅に近接した高架下空間などを活用し、商業施設や駐輪・駐車場、レンタル収納スペースなどを配置することで、「住みやすい沿線環境の提供」に努めてまいりました。また、保育事業や学童保育事業などの展開を通じて、小田急沿線における子育てしやすい生活環境の整備を進めているほか、来年秋の開業を目指して「サービス付き高齢者向け住宅事業」に参入するなど、少子高齢化や将来的な人口減少に備えた

様々な施策にも積極的に取り組んでおります。

この他、本年7月には相武台前駅直結の商業施設「小田急マルシェ相武台」をオープンしたほか、海老名駅東口では商業施設と賃貸住宅から成る複合施設の建設を進めるなど、沿線にお住まいの方のさまざまなライフスタイルにあった住環境の提供や日々の生活をサポートする機能の拡充を進めており、こうした施策を着実に推進することで「日本一暮らしやすい沿線」の実現を目指してまいりたいと考えております。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。